

『親たちは学校に何を求めている？』

アンケート集計第一次報告書

平成 16年 3月

おやおやプロジェクト
浜松市政向上委員会

はじめに

浜松市政向上委員会では、子どもや親をめぐる問題の解決を政策テーマのひとつに掲げています。そこで2002年から小中学校に通う子どもたちの親や専門家たちと連携をして、「おやおやプロジェクト」を立ち上げ、共に子どもの教育や学校、家庭について考えてきました。

また同年には、子育て中の親や家庭が抱えている不安、戸惑い、悩みなどを、親の視点からアンケート調査し「おやおや報告書（第1弾）」としてまとめました。

このアンケート調査からは、親として子どもをどのように育てたいのか、子どもにどのようになって欲しいか、という確たる思いを持っていない親ほど、不安感が大きいこと。更に、学校完全5日制により、その不安感が増幅されていること。それは、情報不足から来るもの、この先これでどうなるのかという漠然とした不安感、問題に立ち向かおうとしても、学校・教師・地域等との連携が上手く取れず、親だけで空回りしているものなど、様々であることが浮かび上がってきました。

これらの問題を解決するには、さらに調査も必要であり、当事者である親（家庭）・学校・教育委員会・地域などとの連携の強化が必要であること。また、当事者と各機関をつなぐ第三者機関の存在も必要である、という提案を含む、「おやおや報告書（第1弾）」を浜松市教育委員会に提出しました。

不審者の出没、登下校時の連れ去り事件、子どもによる犯罪、教師によるセクハラ行為など子どもと学校をめぐる事件はさらに増加、頻発してきています。また「ゆとり教育」が提唱される一方、学力低下、学校でのいじめや暴力、非行、不登校などの問題もさらに浮き彫りになってきました。そのような中で、開かれた学校づくりのため、子どもたちを守るため、親と学校が地域との連携を図る動きも少なからず出てきています。こうした背景を踏まえて2003年度に「おやおやプロジェクト」では、親たちが学校や教師に本当に望んでいるのは何なのか、当事者の率直な思いを知るためにアンケート調査を実施しました。

この調査では、短期間であったにも関わらず163名の方々の声が集まり、自由回答欄からは、親自身やお子さまが経験された当事者としての率直で貴重なご意見を伺い知ることができました。

この報告書は、調査回答を集計・分析した第1次的なものです。ここにみなさまの意見を加え、さらに分析を進め、提案・提言にまとめていきたいと考えています。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた皆様、各関係機関の方々に心からお礼申し上げます。またさらなるご意見・ご感想、事例などをお寄せくださいますよう、お願いいたします。

2004年 3月
浜松市政向上委員会 鈴木 恵



< 目 次 >

調査の目的と概要

1. 目的
2. 概要
3. 回収結果
4. 調査主体

調査結果

1. 回答者プロフィール
年代 / 性別 / 子どもの学年
2. 理想とする小学校について
選択肢回答 / 自由回答の分類と抜粋 / 分析と考察
3. 理想とする中学校について
選択肢回答 / 自由回答の分類と抜粋 / 分析と考察
4. 理想とする教師像について
選択肢回答 / 自由回答の分類と抜粋 / 分析と考察
5. 理想とする校長像について
選択肢回答 / 自由回答の分類と抜粋 / 分析と考察
6. 休日の授業以外のサービスについて
選択肢回答 / 自由回答の分類と抜粋 / 分析と考察
7. 子どもたちの安全面で気になる事について
自由回答の分類と抜粋 / 分析と考察
8. 学校の環境をよくするため、自分には何ができるか
自由回答の分類と抜粋 / 分析と考察
9. 学校に関することで、ひどいと思ったできごと
自由回答の分類と抜粋 / 分析と考察
10. その他、学校や教師に求めること
自由回答の分類と抜粋

まとめ

付 調査用紙

調査の目的と概要

1 調査の目的

親たちが、学校や教師に本当に望んでいることは何なのか、当事者の率直な声を聞き、政策提案につなげるため、アンケート調査を行う。

2 調査の概要

(1) 調査対象

対象者およびサンプル数

未就学児、小学生、中学生の子どもを持つ浜松市とその近郊に在住する

親 200人

抽出方法

30人の調査担当員の知人関係者の中から無作為抽出

(2) 調査方法

アンケート用紙による留置調査、電子メールによる調査

(3) 調査内容

Q1 あなたのことについてお答えください(年齢、性別、子どもの学年)

Q2 理想とする小学校は?

Q3 理想とする中学校は?

Q4 理想とする教師像は?

Q5 理想とする校長像は?

Q6 休日の授業以外のサービスについて

Q7 子どもたちの安全面で気になる事

Q8 学校の環境をよくするため、自分には何が出来るか

Q9 学校に関する事で、ひどいと思ったできごと

Q10 その他、学校や教師に求めること

(4) 調査時期

2003年 12月 1日 ~ 12月 21日

3 回収結果

配布数 200

回収数 163(81.5%)

有効回収数 163

4 調査主体

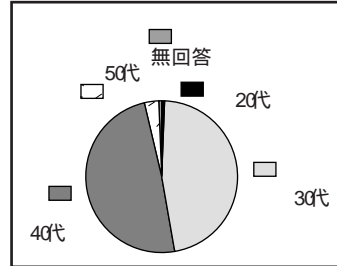
おやおやプロジェクト
浜松市政向上委員会

調査結果

1. 回答者プロフィール

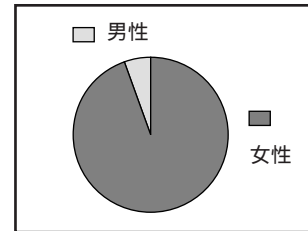
年代 (人)

20代	1
30代	76
40代	80
50代	5
無回答	1
合計	163



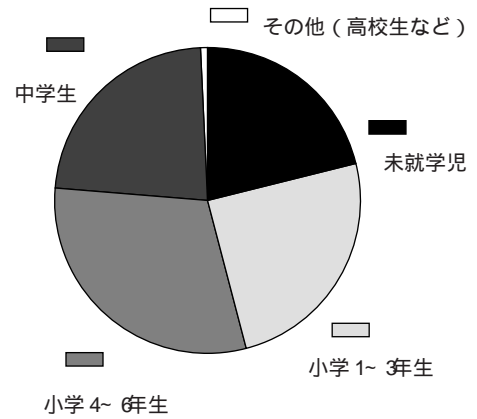
性別 (人)

女性	154
男性	9
合計	163



子どもの学年

	(人)
未就学児	57
小学校 1~ 3年生	67
小学校 4~ 6年生	82
中学生	62
その他 (高校生など)	2



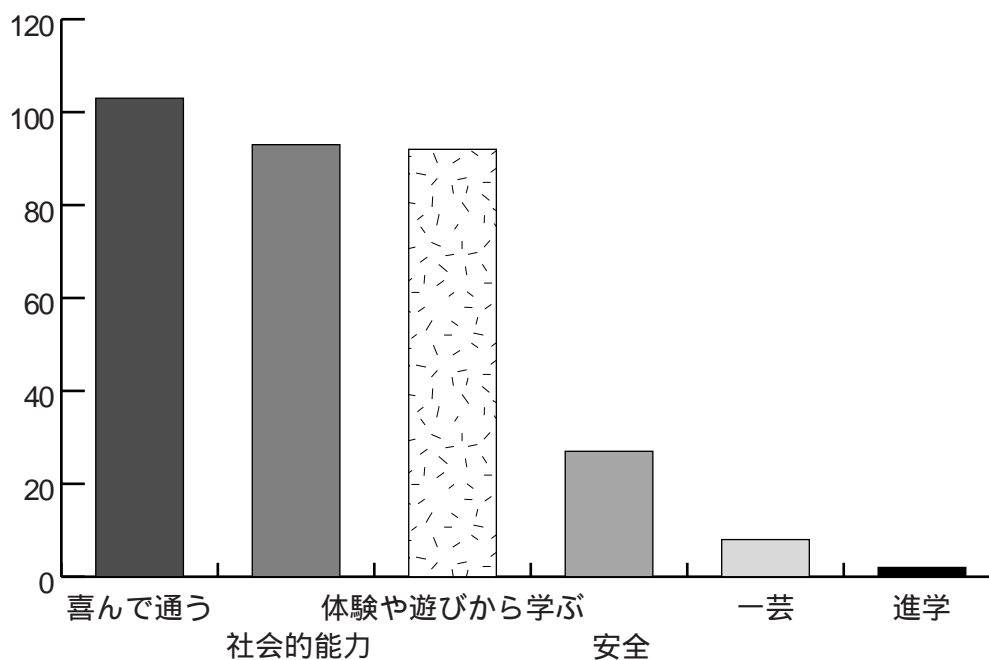
回答者 163人中、
中高生もいる親は、
64人 (39.3%)

主な回答者は、30代から40代を中心とした女性である。また、子どもの年齢が、未就学児から中学生までの親が主である。

2. 理想とする小学校について

どのような小学校が理想であるかを、選択肢から2つ選び、自由回答に記入してもらった。

	合計(人)	小学生以下のみの親(人)	中高生のいる親(人)
子どもが喜んで通う学校	103	64	39
社会に出て困らないだけの能力(基本的な生活習慣や基礎学力)をつけてくれる学校	93	49	44
自然に親しみ、体験や遊びの中から学べる学校	92	59	33
安全対策がしっかりしている学校	27	18	9
子どもの特性に合わせて一芸を伸ばしてくれる学校	8	6	2
難易度の高い学校に進学できるだけの力をつけてくれる学校	2	2	0



理想とする小学校について（自由回答の分類と抜粋）

「のびのびと」「楽しく」・・・31人

- ・楽しんで通える、楽しく学べる
- ・子どもたちがいきいきとしている

「社会性を身につけさせてくれる」・・・17人

- ・基本的ルールをしっかりと生活の中で覚えていけるように
- ・協調性を持たせ、けじめをつけさせる

「人間性を育て、人間関係づくりを学ぶ」17人

- ・個人が尊重され、互いに尊重できる人間形成の場
- ・子どもたちが遊びや勉強の中で、より良い人間関係の築き方を学ぶ

「学習面をしっかりと」・・・14人

- ・基礎的な学力を全ての子に指導できる
- ・補習や習熟度クラスで、塾に通わなくても授業内容が全員理解できるように

「少人数制を」・・・13人

- ・少人数クラスでしっかり見てほしい
- ・少人数で先生との関わりをもっと持てるように

「子ども教師間の信頼関係」・・・11人

- ・保護者、学校、地域の連携がとれ、信頼できる
- ・教師（学校）と親が互いに信頼関係が持てる

「学校経営について」・・・8人

- ・教師と親が信頼関係を持てる学校（お互いに）
- ・情報公開がきちりできる学校
- ・問題を明らかにし、次へのステップにする

「いじめや不登校のない」・・・3人

「その他」・・・32人

- ・画一化されないいろいろな特色を持った学校があるといい
- ・子どもが安心して通える、子どものための学校である（いじめが放任されたり、教育委員会に学校から成果があったかのような虚偽の報告がなされたりしない。）
- ・放課後の活動が充実している
- ・おやつのある時間がある

理想とする小学校について（分析と考察）

分析

喜んで通える学校が一番

「子どもが喜んで通う学校」が第1位（103人）で、次に「自然に親しみ体験や遊びの中から学ぶ」「社会に出て困らないだけの能力（基本的な生活習慣や基礎学力）をつけてくれる」がほぼ同数（約90人強）で並んでいる。

自由回答でも、「のびのびと楽しく」と望んでいる方が31人いた。

中高生の親は、社会的な能力も小さいうちから必要と考える

中高生を持つ親は、「社会に出て困らないだけの能力（基本的な生活習慣や基礎学力）をつけてくれる学校」（44人）が「子どもが喜んで通う学校」（39人）を僅かに上回っている。中高生を持つ親は特に、小学校のうちからきちんと指導し学力についても丁寧に見てほしいと期待を寄せているのではないかと思われる。

人との関わりも重視

自由回答から、「社会性を身につけさせてくれる」（17人）、「人間性を育て、人間関係づくりを学ぶ」（17人）と、人との関わりの上で学ぶべきことを学校での集団生活に期待していることが伺える。

学習は、ていねいに楽しく

「学習面をしっかりと」（14人）、「少人数制」（13人）を望む声も多く、学校で楽しく学ぶことにより興味を持たせてほしいという希望と、塾に通わなくても学校で基礎が分かるように教えてほしいと望んでいる。「少人数制」では、子ども一人ひとりに合った指導へのニーズも強く、学習面だけでなく個性の重視を求める声も見られた。

情報を公開し、信頼関係を築く

学校で起きる問題に対し、情報を親にもきちんと伝えてほしいと望んでおり、そこから信頼関係も築かれるという声があった。

考察

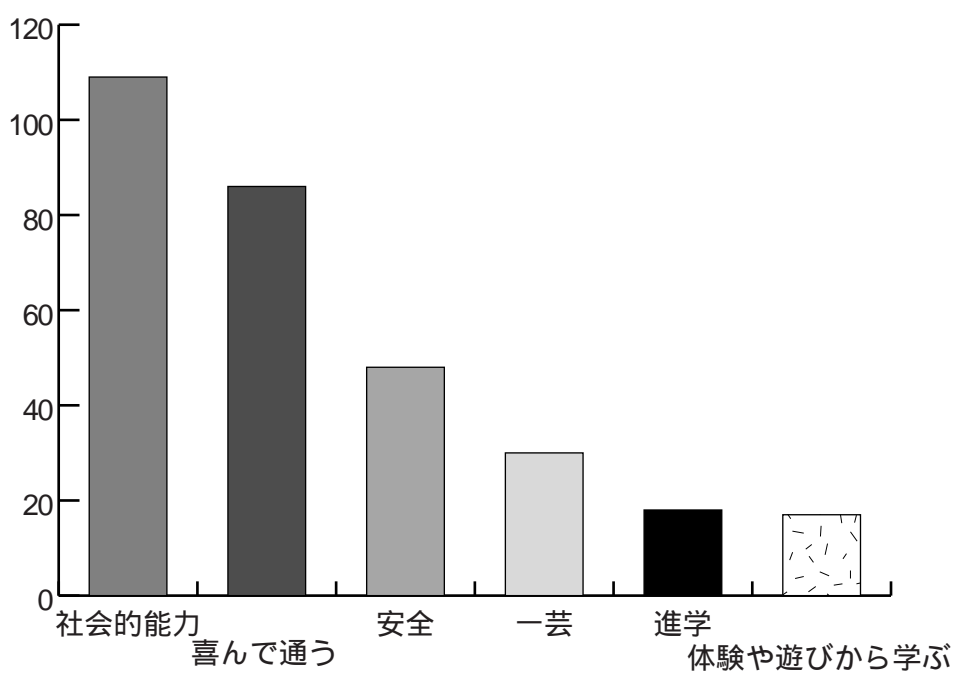
親は、小学校では生活習慣や社会性を身につけ、勉強に慣れ親しむことができる場と考えているようだ。学習面においては、特別な能力や学力ではなく、基礎がしっかりと身につくようにと望んでいる。子どもひとり一人に合った指導を望んでおり、そのための手段が少人数制という形なのであろう。子どもの人間性が育まれ、社会性を身につける大切な時期であるがゆえ、その子らしさを大切にしたい子どもへの丁寧な対応を望んでいる。

また、親は学校との信頼関係も望んでいる。その関係づくりの第一歩が情報の公開であろう。

3. 理想とする中学校について

どのような中学校が理想であるかを、選択肢から2つ選び、自由回答に記入してもらった。

	合計(人)	小学生以下のみの親(人)	中高生のいる親(人)
社会に出て困らないだけの能力(基本的な生活習慣や基礎学力)をつけてくれる	109	59	50
子どもが喜んで通う学	86	51	35
安全対策がしっかりしている学校	48	32	16
子どもの特性に合わせて一芸を伸ばしてくれる学校	30	20	10
難易度の高い学校に進学できるだけの力をつけてくれる学校	18	12	6
自然に親しみ、体験や遊びの中から学べる学校	17	11	6



理想とする中学校について（自由回答の分類と抜粋）

「教師と生徒との信頼関係」・・・24人（うち中高生の親 16人）

- ・力で子どもを押さえ付けるのではなく、向かい合って子どもの心理を理解してくれる
- ・子どもへの差別がない
- ・中学生は大人への一歩。先生と子どもたちが議論したり、分かち合ったりする場が多くなるとよい
- ・先生と生徒との信頼関係を築ける

「基礎学力をつける」「基礎のうえに自分の考えを」・・・20人（うち中高生の親 16人）

- ・わからないけれど我慢して座っている生徒がいる。全ての子に基礎的な学力をつけてほしい
- ・論理的に考える力をつける
- ・討論できる場をつくってほしい

「いじめのない、安心して学べる」・・・16人

- ・問題を放任しない。
- ・子どもが安心・安全に通える環境、人間関係づくり

「子どもが充実して過ごせる」・・・15人

- ・子どものやる気を起こさせてくれる
- ・何か1つのことに打ち込み、充実感を得られるような体験をさせてほしい

「思春期の子どもへの関わりについて」・・・15人

- ・自分らしさを追求し、他を認め、協調性ある人間づくりのできる場
- ・体の面でも心の面でもケアしてくれる

「難しい年齢だからこそ学校と家庭が力を合わせて」・・・9人

- ・学校が、保護者、地域と連携し信頼を築く中で、子どもたちを見守ってほしい

「将来についても指導してほしい」・・・9人

- ・子どもが将来について悩んだ時、考えや資料を見せてもらえる

「その他」・・・26人

- ・自立していく能力を養う
- ・生徒が企画し進めていく活動が多い
- ・地域との関わりも必要

理想とする中学校について（分析と考察）

分析

社会的能力をつけさせてほしいと望んでいる

109人が中学校で「社会に出て困らないだけの能力（基本的な生活習慣や基礎学力）をつけてくれる」を望んでいる。これは理想とする小学校より多い。「安全対策がしっかりしている学校」を望む声も第3位（48人）で小学校より重視されている。

進路や将来への指導をしっかりとやってもらいたい

「難易度の高い学校に進学できるだけの力をつけてくれる学校」が割強であるのに対し、自由回答では「学力をつける」（20人）、「進路・将来について考える、指導する」（9人）などへの期待の声が多い。基礎的な学力は、学校でどの子どもにもつけてほしいと望み、また子どもが自分で将来を考えていくための力をつける指導が期待されている。

自己確立の時期だからこそ、教師と生徒との信頼関係を望む

自由回答では、「教師と生徒との信頼関係を望む」が24人と最も多く、そのうちの16人が中高生を持つ親からの声である。「思春期の子どもへの関わりについて」書いた方も15人あった。

「いじめのない」「安心して」という声も理想とする小学校より多く（16人）見られた。

学校と家庭が力を合わせて

中学生になると子どもや周りからの情報も入ってこなくなるので様子が分からなくなり、家庭も孤立化するので、そんな時期だからこそ、学校が親や地域と連携・協力していく必要がある、という声（9人）もあった。

子どもに充実した時間を過ごしてほしい

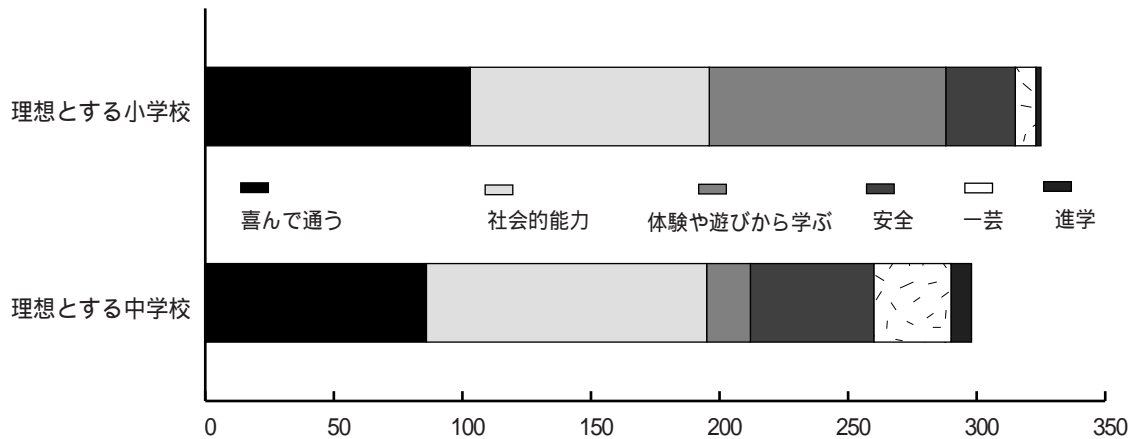
自由回答では、小学校は「楽しく・のびのびと」だったが、中学校になると「子どもが充実して過ごせる」ことを15人が望んでいる。

考察

中学生は、成長発達段階において個々に差があることと、個性が鮮明になってくる時期である。学校が、子どもの個々に応じたよりきめ細やかな対応をすることを親は望んでいる。

また、中学生になると子どもから親への情報量が減ってくるうえに、子どもの個人差が大きいため、他の親と問題を共有することが困難になり、それぞれの家庭が孤立してしまう。以上のことに配慮した家庭とのコミュニケーションが必要で、それによって教師と子ども、学校と家庭の信頼関係が築かれていくと考えられる。

理想とする小中学校を比較して（考察）



社会が不安だからこそ、子どものうちに何とかしたいと願うのか

「体験や遊びから学ぶ」は、中学校になるとぐんと減り、「社会に出て困らないだけの能力」や「一芸を伸ばしてくれる」「安全対策がしっかりしている」が増えている。

これは、社会に適応し自立して行ってほしいという願いや、他者との差別化により競争社会での生き残りを望んでいる表れではないか。いじめや暴力、交通事故や不審者の出没、子どもの連れ去り事件の続発など、安全に対する不安も表れている。全体として、中学校になると自立を念頭に入れ、この時期から対応してほしいと期待しているのではないか。

学校、家庭、地域が連携する

小学校でも中学校でも、子どもを取り巻く問題を、学校だけ、家庭だけで考えるのではなく、学校・家庭・地域が連携し、協力していきたいという親の姿勢が見られる。

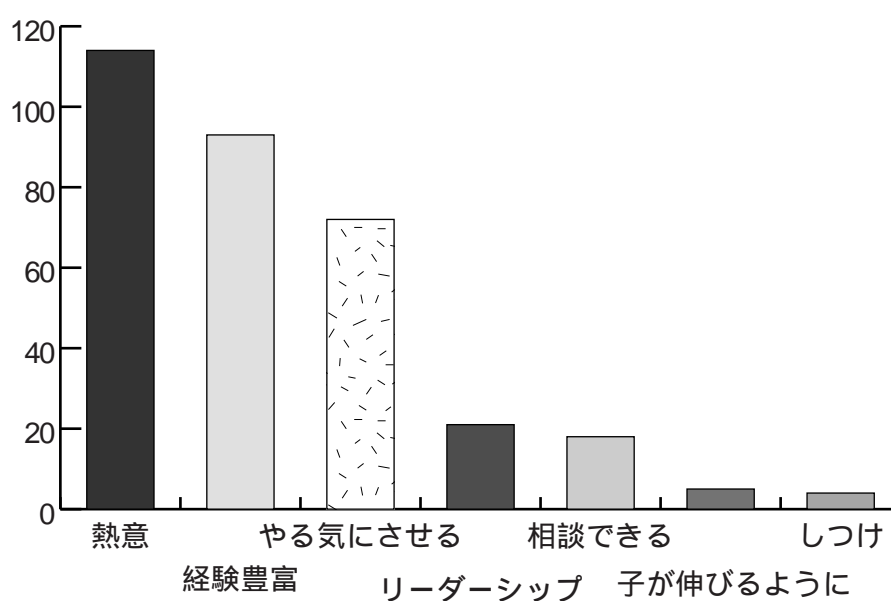
子どもの基本的欲求も考慮する

成長期にある子どもたちに「おやつを出す」という意見もあった。学校完全週5日制に伴う子どもの1日授業時間数の増加、中学校における菓子ゴミ散乱の現状をも考慮した時、子どもの基本的欲求を満たすということも解決へのヒントになるのではないだろうか。

4. 理想とする教師像について

理想とする教師像はどのようなものかを選択肢から2つ選び、自由回答にも記入してもらった。

	合計(人)	小学生以下のみの親(人)	中高生がいる親(人)
教育に対して熱意があり、子どもが好きである	114	68	46
社会経験が豊富で、多角的視野で子どもを指導できる	93	57	36
分からない子の目線に立ち、根気よく指導しやる気を起こさせてくれる	72	43	29
子どもを引っ張っていくリーダーシップがある	21	11	10
気さくな人柄で、親の相談や悩みにもよく乗ってくれる	18	16	2
できる子がより伸びるように指導してくれる	5	1	4
厳しくしつけて育ててくれる	4	3	1



理想とする教師像について（自由回答の分類と抜粋）

教師の人柄、人間性・・・16人

- ・熱意は必要だが熱血である必要はない
- ・人間として尊敬できる方であってほしい
- ・ほめる時と叱る時のメリハリがある

広い視野、さまざまな経験が豊富である・・・14人

- ・教育だけでなく、いろいろな分野（社会経験など）で経験を積んでいる
- ・生徒を見る、聞く、話すことを惜しまない

子どもが好き、子どもから信頼されている・・・13人

- ・何でも相談できたり、親ともコミュニケーションがとれる
- ・どんな子どもにも誠実に、真剣に取り組んでくれる

子どもの可能性を引き出してくれる・・・12人

- ・子どもひとりひとりの成長を理解し、長所、個性をより一層伸ばしてくれる
- ・それぞれの子どもの特長を見極めた適確な指導をしてほしい

子どもの心を見る、受け止めてくれる・・・11人

- ・心のカウンセリング、心の教育ができる
- ・状況に応じて子どもや親の側にたってくれる
- ・一人ずつの性格を見抜いた指導ができる

子どもを理解してくれる・・・10人

- ・子どもを理解し、少なくともそうしようと理解してくれる
- ・子どもの本質を理解しようとしてくれる

子どもの話をよく聞いてくれる、子どもをよく見ている・・・8人

- ・子どもの変化に気付く ・親に話せないようなことも相談できる
- ・弱い立場の子をも拾い上げ、皆の理解を得られるよう努力してくれる

しっかりとしたポリシーを持っている・・・7人

- ・将来を担う子どもを教育するということに使命を持っている
- ・指導力と子どもの視点との両方を持ち、個性を受け入れつつ全体をまとめることができる

分かるように教えられる・・・5人

- ・オリジナルの工夫したわかりやすい授業をしてくれる
- ・子どもの目線で物事を考え、根気よく指導してくれる

その他・・・14人

- ・授業とそれ意外のメリハリがある
- ・クラスで起きていることに敏感に察知できること
- ・教師が思う存分に情熱と理想を発揮するだけのゆとりと自由がない
- ・何年か毎に免許の更新をする ・民間企業で3年くらい社会勉強をしてから

理想とする教師像について（分析と考察）

分析

子どもが好きという教師を望んでいる

114人の親が「教育に対し熱意があり、子どもが好きである」教師を選び、自由回答でも「子どもが好き、子どもから信頼されている」という回答が13人あった。93人が「社会経験が豊富で、多角的視野で子どもを指導できる」ことを望んでおり、「分からない子の目線に立ち、根気よく指導しやる気を起こさせてくれる」も約4割強となっている。

子どもの心を見ることのできる、人柄重視

自由回答では、「教師の人柄、人間性」が16人で、「子どものことを受けとめて」（11人）、「子どもを理解して」（10人）、「子どもの話を聞いて」（8人）など教師の子どもへの姿勢を重視している。親は、教師の関わり方が、成長発達段階にある子どもに大きく影響を与えていると考えている。

「子どもの可能性を引き出してくれる」と回答した12人のうち、11人が小学生以下の子どもを持つ親の回答である。

全体として、学習指導に関する記述よりも、子どもへの対応の仕方や教師自身の人柄に関する声が多かった。

教師の理想と現場体制のギャップもある

今の学校には、「教師が思う存分に情熱と理想を発揮するだけのゆとりと自由がない」「教師自身が個性をつぶさないとやっていけない」、という学校の体制に対する声も見られた。

考察

教育に熱意がある・経験が豊富である・子どもの立場での指導など、親が理想とする教師像への注文には厳しいものがある。教師の存在・人間性が、子どもの成長発達に大きく影響すると感じているゆえに、教える能力よりも、子どもが好きでその人柄が重要であると考えているのである。

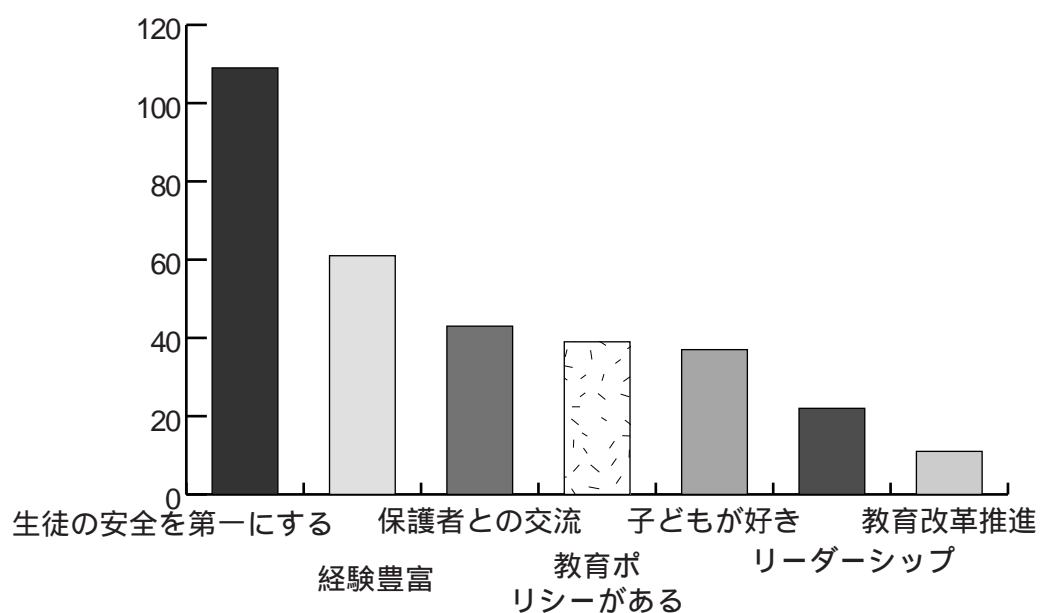
この期待に反するような教師に現実に対応している親からは、厳しい声もあった。親は、教師の影響力が子どもにとってマイナスに働いていると感じた場合、どのような対応ができるだろうか。

教員免許の更新をするという声もあったが、評価する仕組みができればそれも教師の質を問うひとつの方法であろう。

5. 理想とする校長像について

理想とする校長（学校の責任者）像はどのようなものかを選択肢から2つ選び、自由回答にも記入してもらった。

	合計（人）	小学生以下のみの親（人）	中高生がいる親（人）
問題が起こった時には、生徒の安全を第一に、迅速に対応してくれる	109	69	40
社会経験が豊富で、多角的視野で学校経営ができる	61	36	25
親の理解を得る努力を惜しまず、積極的に交流している	43	43	18
教育熱心でしっかりした教育ポリシーを持っている	39	18	21
子ども好きで、子どもたちに慕われてい	37	27	10
人を惹き付け、リーダーシップを発揮している	22	15	7
革新的で積極的に教育改革を推進している	11	4	7



理想とする校長像について（自由回答の分類と抜粋）

資質

子どもが好きで信頼され、子どもを理解しようとしている人（28人）

- ・子どもたちのことをまず第一に考えてくれる。
- ・子ども（人間）が好きで、人の意見を聞く耳を持った人。

備えていてほしい人柄について（16人）

- ・懐が深い。・ユーモアがある。・人から好かれる。・話をしっかり聞ける。
- ・信頼できる。

問題と物事への対応

学校で起きた問題に、迅速かつ適確な対応ができる。また問題を公開する（21人）

- ・学校で起きている起きた問題を、しっかりと親や子どもたちに伝え、素早い対応をしてくれる。
- ・何か事件がおきたりしたら迅速に対応して子どもたちを守れる。

物事への対応について（11人）

- ・固定観念に捕らわれず柔軟な対応ができる。
- ・保護者とも話し合いが充分にできる。
- ・見て見ぬふりをしない。

学校責任者としての役割

教師との関係について（15人）

- ・教師1人1人の状態に心を配れる。
- ・任せっきりにしない。
- ・先生方ともうまく連携できる。

学校の教育方針を示し、リーダーシップをとれる（11人）

- ・教育に対してポリシーを持ち、リーダーとして魅力がある。
- ・教師の良さを経営の中に発揮できる

保護者との交流を求める（6人）

- ・学校と保護者が一緒に協力して子育てができるように、いろいろな機会を作ってほしい。
- ・直接話をしてほしい。

学校の最高責任者を自覚している人（4人）

その他（14人）

- ・現場で積極的に行動する。
- ・今の世の中での母親の苦勞や、子どもの問題などを考えて福祉などにも精通している。
- ・広い視野を持つ。

理想とする校長像について（分析と考察）

分析

生徒の安全を第一にしてほしいと望む

「問題が起こった時には、生徒の安全を第一に、迅速に対応してくれる」が第一位で109人、次いで「社会経験が豊富で、多角的視野で学校経営ができる」が61人、次に「親の理解を得る努力を惜しまず、積極的に交流している」が43人となっている。

問題への対応力が問われている

自由回答では、21人が「学校で起きた問題に、迅速かつ適確な対応ができる。また問題を公開する」校長を望んでおり、「物事への対応について」（11人）では、見て見ぬふりをしない、親とも話し合いが充分にできるなど、具体的に書かれている。

何よりも子どもが好きである

選択肢では37人、自由回答では28人が、「子どもが好きで信頼され、子どもを理解しようとしている」と答えている。その上で、資質や問題解決力、教職員との関係づくりなどが求められている回答が多かった。

考察

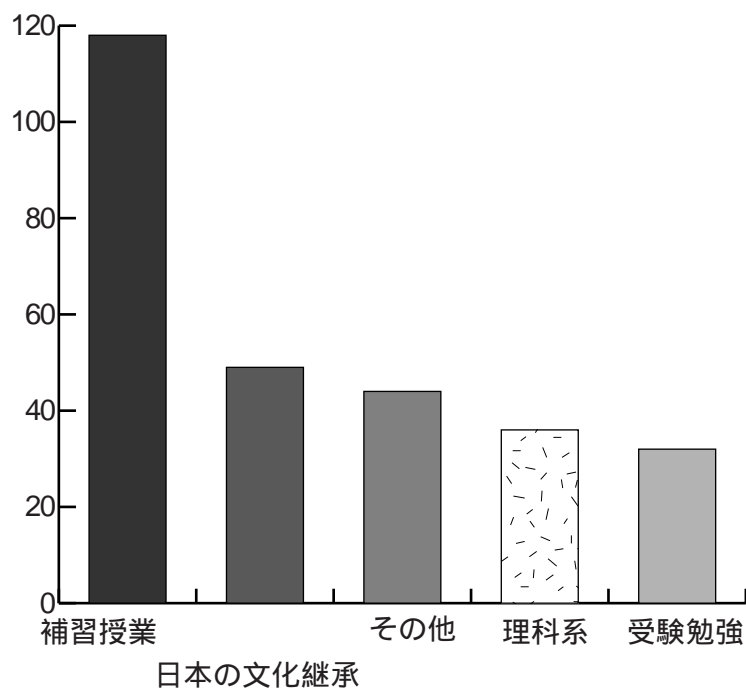
校長には、学校で何か起きた時の対処・対応への采配といったトップマネジメントをする存在としての期待が大きい。そのために校長自身の決断力・統率力・人格を重視している。また何よりも校長が子どもを好きであることを期待している。問題解決に当たる際、子どもが優先順位の1位であることは、基本である。

具体的には、迅速に対応して子どもを守ることと、子どもだけでなく親にも説明して話し合いがほしいと望んでいる。また、当事者以外の他の親にも情報を公開してほしいと望んでいる。公開することにより、親が学校のさまざまな対応ケースを知ることになり、それによってよりよい信頼関係を築くことができるだろう。

6. 休日の授業以外のサービスについて

学校の放課後や土曜日に、授業以外のサービスを求めるとしたらどのようなものを希望するかを聞いた。

	(人)	小学生以下のみの親(人)	中高生がいる親(人)
授業中にわからなかったことの補習授業	118	67	51
茶道、華道、剣道、柔道などの日本の文化を伝える教室	49	30	19
その他	44	35	9
科学実験など理科関係の教室	36	26	10
受験勉強の指導	32	14	18



休日の授業以外のサービスについて
(学校でこのようなサービスを行うことについての自由回答の分類と抜粋) 105人

具体的にどんなものが求められているのか

補習の場として必要(20人)

- ・塾任せでなく、学校だけで十分な学力が身につくようになるとよい。
- ・日数が減り、授業のスピードがアップし、分からないまま置いていかれる子や、塾などに頼らなければいけない現状を打破できるよう補習してほしい。

休みに学校で参加できるものがあると助かる(15人)

- ・学校で行なってもらえれば、子どもも参加しやすいし親も安心して送り出せる。

日本文化体験できる場(11人)

- ・核家族化が進み、日本の文化や季節の行事など家庭だけで経験しにくいことを行ってもらえると、親も子どもも楽しく参加できると思います。

学び・語り合う場として開放してほしい。(10人)

- ・課外クラブのように勉強できないものを開催して、交流の場を作ってほしい。
- ・一方的に教える、学ぶのではなく、教師・保護者・生徒が共に学べる場が欲しいと思います。
- ・教師と子どもが1対1で話しができる時間を作ってほしい。悩みごと等、初期解決につながり、いじめの芽を摘む事ができる。

子どもの居場所として(6人)

- ・休日でも学校の行事を開催して、子どもたちが集れる場所になってほしい。
- ・遊び場が少ないため、学校を午後開放してほしいです。
- ・土曜日、親が仕事でいないとき。

有意義に過ごすために(4人)

- ・週休2日になり、ゲームばかりやっていたり、時間を持て余している子にとっては、有意義な時間になるのではないかと思う。

どんな形でやることができるか

主体は、教師でなく地域や他者との協力で(14人)

- ・学校をステージとして、教師だけでなく地域の人たちももっと盛んに参加していただき、多くの人たちで子どもを教育、見守っていただけたいと思う。
- ・学校という場を利用して、生徒たちと地域の人たちの交流をはかり、そのふれ合いの中から自然に行動を起こしていける心を芽生えさせ自主性を喚起する。

教師の負担が多過ぎる（12人）

- ・先生の仕事が増えて本来の仕事に支障を来たしたりしたら困る。
- ・素晴らしいことであるが、教職員および生徒の負担になるのなら行き過ぎは避けるべき。

その他（12人）

- ・休日の教室の貸し出し。
- ・運営・安全面で課題があると思います。
- ・学校行事ということではなく、出入り自由の気楽なものなら良いと思う。

親の経済的・精神的負担の軽減になる（3人）

反対です（7人）

- ・学校では教えられない事などを、親子で体験していきたいから、学校ではなく家庭で過ごす方がよいと思います。
- ・放課後たっぷり遊べる場所と時間があればいい。習いごとの延長のようなサービスには反対。

休日の授業以外のサービスについて (学校でこのようなサービスを行うことについての分析と考察)

分析

学びの場に

「授業中に分からなかったことの補習授業」を全体の約7割、中高生の親では64人中8割が望んでいる。自由回答では、塾に頼らずに学校の授業または補習で学力をつけてもらいたいと望む声が多く見られた。

地域で活用したい

このほか選択肢の「その他」で、「市民への施設開放」「地域との交流」「社会人学校」など、学校施設を地域に開放し活用する声(5人)も見られた。

自由回答では、163人中156人が学校でこのようなサービスを行うことについて肯定的だが、その内訳はさまざまである。

7割の人が補習を望んでいるけれども、「教師への負担が多過ぎる」(12人)と心配している。一方、「教師以外の人協力」「施設・人材を活かす」「地域の人が参加」など、学校が地域の中で教師以外の人材を活用して実現できないか(14人)という、教師に依存しない形の声もあった。

子どもの居場所として

選択肢の「その他」では、「スポーツを望む」が最も多く(12人)、次いで「授業ではできないが家庭でも行えないような事を望む」(10人)いる。また「安心して遊べる場所」(3人)は自由回答でも「子どもの居場所として」(6人)あり、子どもたちが安心して遊べる場を見直す必要があることが分かった。

また、既存の公民館や科学館などの子ども講座は、抽選でなかなか子どもの希望どおりには土日を活用できないでいる声もあった。「子どもが希望して行けるものがあれば、学校ならば参加しやすい」という声(15人)もあった。

必要ない

その他に、「中途半端に終わりそうだから、期待していない」「家庭がもっと子どもの教育に責任を持つべき」など、サービスに反対する声もあった。

考察

学習面での不安や塾への負担感が、補習を望む声に反映されている。休日にも補習授業を求める声の多いことに対しては、学校として、週日の授業内容や子どもの理解度などを十分に把握・検討し、親が抱いているような現状があるのかを説明することが必要である。その上で、週日以外にも基礎の補習を行なう必要がある場合はどうするのか、親とともに考えていくのがよいだろう。

休日を「有意義に過ごす」ことを望む声もあり、学校完全5日制における家庭での過ごし方も、親にとっては負担感があったり、子どもの様子を見ていて焦りや不安になったりする材料であることが伺える。

親にとって、学校の存在は大きく人の目が届く場所と考えられている。休みの日に、子どもの選択肢のひとつとして、行かねばならないではなく、安心して行ける場所・居場所が、学校であれば参加しやすいのではないかと。

求める内容としてはさまざまであるが、方法として地域の力を発揮する場や地域コミュニティを作っていく場としての学校施設の活用の声があることは興味深い。

7. 子どもたちの安全のために気になる事について

(自由回答の分類と抜粋) 134人

通学路が心配/防犯、交通事故など(66人)

- ・子どもたちが安心して登下校できるよう対策を立てる必要が高まっていると思います。
- ・通学路の安全確保、学校周辺の安全確保、学校内の安全確保のため、人手が必要ならPTAと積極的に相談してほしい。
- ・一人にならないと言われるが、どうしても一人になることがあり心配です。
- ・登下校時の通学路、とても心配です。ついて歩くわけにはいけないので、自分で自分の身を守るようによく言わなくてはいけません、それだけでは安心できません。学校でも大きな声を出す練習をすとか、何かあったら大人に話せるというような対策を講じてもらいたいです。
- ・昔は外に人がいて、子どもたちを見守ってくれたが、核家族や働く人(母親)が増え、外に出る大人が少ないので、通学路で心配な所があり不安です。
- ・通学路が狭い。歩道が完備されていない。

部活帰り、暗くなってからの下校が心配(22人)

- ・街灯が少なく、通学路が暗く防犯面でも交通事故の面でも心配。
- ・下校が遅くなるので心配しています。親が車で送り迎えするのも変だとは思っている。
- ・中学の部活後、帰宅時間がかかり遅くなります。友だちと別れて1人になる事が多く、真っ暗な道を帰ってくる場合はかなり心配です。

対策案

- ・集団下校させてほしい。(7人)
- ・街灯を増やしてほしい。(4人)
- ・信号を増やしてほしい。
- ・スクランブル交差点のような、歩行者のみ渡る信号がほしい。
- ・人手が必要ならPTAと積極的に相談してほしい。

いじめ対策(36人)

いじめ対策への意見

- ・学校側は生徒間のいじめの問題を殆ど掴んでいないのだと感じる。
- ・経験不足の教師、社会的に未熟な教師は、対応できていないと思う。よけい悪化することの方が多い。自己満足的指導ばかりで子どもたちは、先生に対しての不信感が募るだけ。学校カウンセラー等、他の第三者の介入が必要である。
- ・心に大きな傷を残すいじめ。対処の仕方が難しく自殺を引き起こす大きな要因となるため、学校側は万全を尽くしてほしい。
- ・子どもにアンケートをとるなどして、口では言いにくい事でもアンケートなら書ける子もいるかもしれないので、積極的に行い対応していった方が良い。
- ・教師の目の行き届かない所でやるから、休み時間も見回る教師が必要。学校の見回りも、不審者の見守りもするとよい。
- ・いじめる側の子どもをケアしない限り、安心できる学びの場は実現できません。叱るだけでなく、きちんとつき合えば、その子も救われるし、いじめられた側も救われます。

学校の対応について（12人）

- ・毎年発生している毛虫の対策がきちんとできていない。
- ・授業妨害や授業に出ていないでたむろしている子たちへの対応と、教室に残っている他の子たちがきちんと授業を受けられているか。
- ・学校の様子が親には見えにくい。
- ・教師の態度/いじめを容認する先生、暴言を吐く先生、人により陰険になる先生、強制が強過ぎる教師

学校内での安全確保（12人）

- ・学校内の不審者侵入者に対しての安全対策、危機管理ができていますか。

不登校対策（11人）

- ・不登校児の教育を受ける権利に対し、殆ど何も手が打たれていないこと。（生徒を学校に行かせることが最善だと教師が考え、強要するのが更に子どもたちを苦しめると気付いていないのではないかと思います。静岡県も埼玉県のようにいろいろ施行してみたらどうか？）
- ・不登校の子どもとその親に対するアドバイス、カウンセリング。

連れ去り、変質者について（10人）

- ・最近連れ去り事件がとても多いので、登下校はもちろんのこと、習い事・遊びに出る行帰りに心配です。

非行について（9人）

- ・罪悪感なく普通の意識で悪いことをしている。
- ・近くの公園が、夜、中高生のたまり場になっていて怖い。

子どもが安心・安全に過ごすための対策を（5人）

- ・大人が近くにいない時、子どもが自分で自分の身を守ることができるような指導が必要。
- ・緊急事態発生の場合の実際の対処を習得していない。臨機応変に動ける体制。

その他（15人）

- ・防災/校舎窓ガラスの飛散防止フィルムを施工してほしい。
- ・子どもたちの放課後の安全な遊び場所がほしい。
- ・国旗国歌への強要など、子どもの信念や良心の安全が脅かされているのではないか。
- ・わが子にも、他の子にも関心を寄せ、地域で見守る体勢が希薄になっている。

子どもたちの安全のために気になる事について（分析と考察）

分析

通学路での安全確保を望む

登下校時の安全に不安を抱いている人が66人と圧倒的に多かった。変質者の出没や連れ去りなどの事件の影響から、いつどこで犯罪に巻き込まれるか分からない不安と、また通学路の狭さや歩道がない、車のスピードの問題など交通面での安全性に対しても心配があり、登下校時の子どもたちの安全をどのように確保できるか問われている。中学生などは、部活の帰りが暗くなることから、心配の声（22人）があがっている。それらの対策として集団下校を望む声（7人）また地域によっては街灯がほしいという声（4人）もあった。

子どもが安心して活動できる場としての施設

学校に限らず子どもの活動場での事件を心配（10人）し、安心して子どもを外に出すことができない現状が伺える。

学校に対しては、「いじめ対策・対応」（36人）「不登校への対応」についても関心が高く（11人）、「学校の様子が親には見えにくい」ためどうなっているのか、「うちの学校ではどう対応しているのか見せてほしい」という声もあった。

学校内への不審者侵入の対処や耐震への声もあった。

子どもの心に対して

その他、「子どもの心の負担を減らす」「人間としての根本の教育がなされなければ、表面的な問題はなくなる」「日の丸に対する敬礼や国歌斉唱の強要など、子どもの信念とか良心の安全が脅かされている」という声もあった。

子どもが身を守るための術を身につける

大人が近くにいない時、子どもが自分で自分の身を守り、実際の対処を習得できるように指導が必要である。

考察

登下校時、子どもたちが身を守るための1つの手立てとして、学校からも一人で下校せず、同じ方角の友だちと帰るようにとの指導はあるが、現実には部活・係の仕事・友だちと気が合わないなど、さまざまな理由で一人で下校することも多く、そのための不安の記述が目立った。実際に自宅付近で友人と別れて一人になったところで不審者と遭遇しているケースも耳にする。

地域の通学路について、集団下校にしたり街灯を増やす必要があるかどうか、信号の増設が必要か、通学路に危険な場所はないか、歩道は安全に確保されているのかなど、親や子どもたちの声を拾い上げ、安全な通学路にするための地域ごとのマップづくりをしてみることで、その地域で必要な対策が見えてくるのではないだろうか。

また、いじめや不登校などへの関心・不安や疑問に対しては、学校における現状と対応を家庭に随時伝え、積極的に親やPTAに相談し話し合いを持つことにより、学校の様子が見え、親の不安感も軽減するので、学校側の配慮と努力も必要であろう。

特に、いじめ対策については、適切な対応がなされていない、経験不足の教師により余計に傷つく子どももあるという指摘もあり、スクールカウンセラーや第三者の介入が必要とされていると考えられる。また、いじめを根絶していくためには、対処療法だけでなく、いじめている側の子どものケアやカウンセリングも必要である。

子どもを取り巻く環境は、子どもが安心・安全に過ごす状況ではなくなっている。子ども自身も自らを守るための、対処法を学び習得できるようなサポートが必要である。

8. 学校の環境をよくするために何か協力するとしたら、自分は何ができると思うか。

(自由回答の分類と抜粋) 102人

102人の回答を

- A「ボランティア、奉仕作業等」
- B「PTA活動、行事」
- C「学校に入っていく」
- D「子どもに声かけ、地域で見守る」
- E「その他」

の5項目に大別した。

A「ボランティア、奉仕作業等」67人

「草取り」「校内」「図書」「読み聞かせ」「学習」「交通安全の手伝い」「通学路の見守り」など、ボランティアに積極的な声が多かった。

B「PTA活動、行事」9人

「PTA役員をやる」「PTA活動への参加」「行事参加による親同士の交流、情報交換」「先生、子ども、親が触れ合える行事に参加」等、活動を通して関わろうとしていることが分かる。

C「学校に入っていく」8人

「学校のことをよく知るため、まず学校の活動に積極的に参加する」「親が交代で、学校内を観察する」「一人の保護者あるいは地域の人間として、学校の中に入っていった教師と生徒あるいは保護者が、互いに理解し助け合えるような環境作りを」「学校に行き、見る時間を持つ」「親、地域住民として、もっと素直な意見を学校側に伝えていく」等、自主的に学校との関わりを持ち、助け合える関係になることを望んでいる親がいることがわかる。が、「会合には進んで参加し意見や改善策を述べたい。協力する機会を望んでいますが、学校側が父兄の意見をばかにしている。ただ言わせているだけのことが多い。その後の報告がないので離れてしまう」という声からも伺われるように、学校が親との関係をどのように築いているかが、親の力を活かすかどうかのポイントであると思われる。

D「子どもに声かけ、地域で見守る」13人

「地域住民として、子どもたちに声かけをし、交流する機会に参加する」「登下校であいさつし、子どもたちに地域で見守られているという安心感を与える」「地域で子どもたちに声をかけ、話し、見守っていく」等、地域で子どもたちを守っていこうという意識が見られる。

E「その他」8人

「できることは協力したい」「子どもの教育も安全確保も最後は親の責任。協力よりは、学校から子どもを守ることを考えさせられる場面が多い」「何と云っても、わが子をしっかり育てる事が第一歩」「保護者同士の交流を深めることで、地域全体で子どもたちを育てるようにしたい」「通学路の安全マップを作る取り組みはぜひやりたい」等、幅広く子どもの生活を捉えているようだ。

学校の環境をよくするために何か協力するとしたら、
自分は何ができると思うか。（考察）

学校や教師への要望だけでなく、自らは何ができるか問うた設問であった。

回答者のほとんどが、学校に協力したいと望んでいる。ここには、すべてを学校にお任せするのではなく、自分たちのできる範囲で協力したいとの意志が伺える。

回答の詳細では、その協力関係も、お手伝い感覚から、もっと自主的に親の責任からできることをしたいというものまで幅がある。学校側が、協力したいと望む親との関係をどう築いていくかで、学校の環境づくりが左右される。「ただ言わせているだけ。その後の報告がないので離れてしまう」という声からも分かるように、親にフィードバックして協働していくという発想とその積み重ねが信頼関係を生み、子どもを取り巻くよりよい環境づくりへとつながる。

地域で子どもを見守る、地域で子どもを育てるという声も多い。そうしたいと望んでいる親が、どうしたらそれを具体化し実現できるのか今後の課題である。

9. 設備、教員、教育方針など学校に関する事で、ひどいと思ったできごと（自由回答の分類と抜粋）82人

82人の回答を

A「施設設備について」

B「危機意識について」

C「学校の現状について」

D「教師、学校について」

教師の言動や人間性に疑問

教師の指導に疑問

アクシデント時の教師の対応に疑問

子どもの言い分に耳を傾けない

教育の場であることを自覚して

学校の対応に疑問

教育委員会に対して

情報の提供について

E「その他」

の5項目に大別した。

A「施設設備について」（15人）

- ・トイレの汚れ、においが気になりました。
- ・校舎が古く、廊下が雨漏りしている。
- ・学校の図書が、古くて汚くて、本が少な過ぎる。
- ・冷暖房が完備された学校とされない学校があること。
- ・楽器の街、音楽の街と云われる浜松の小学校の音楽室が、旧態依然そのものだったこと。

B「危機意識について」（3人）

- ・学校への不審者の侵入、登下校時の連れ去り、教師のセクハラ等、誰が被害者になってもおかしくない事件が多く、どのようにしたらよいか。
- ・職員室がなぜ2Fなのか。

C「学校の現状について」（6人）

- ・学校で問題があっても説明・話がない（部の人しか知らない）
- ・中学校の授業中に、他学年の生徒が乱入してきて、授業にならないことがあった。学校中が墨や絵の具などでぐちゃぐちゃにされたこと！上靴もばらばらだった。
- ・1教室に40人の机。ゆとりも何も無い。

D「教師、学校について」

教師の言動や人間性に疑問（21人）

- ・問題を解くことのできない子どもに対し、「バカ」や「なんでこんな問題が出来ないの？」などの言葉を使う。

- ・進路説明時、担任が「調査書に、こんなにイイ子だったかな？と思うほど子どもの長所を書く。一生懸命長所を書く気持ちを理解して。」という。
- ・一部の女子生徒に対して、特別に接したり身体に触る等のセクハラまがいの行為。
- ・テスト勉強して行ったら、「いい子になろうとしたってだめだぞ」と先生に言われた。
- ・クラスの中で「わがままな子」「言い訳をする子」「悪口を言う子」等、悪い子はだれか？というアンケートを担当が行った。
- ・靴を隠された生徒に「隠される方も悪い」と担任が言った。
- ・教師が生徒に向かって暴言や意地悪を言う。他の子たちがそれを聞いてからかう。
- ・時間がない時、嫌いなモノがあり食べれない時、給食を無理やり口に入れて食べさせられた。

教師の指導に疑問（15人）

- ・子どもたちが騒がしい、忘れ物などの理由でへそを曲げて授業放棄する先生がいる。
- ・給食の食べ方が遅い、忘れ物をする、計算が出来ない、計算が遅い等を競争させて、悪い数の多い班が放課後ペナルティとしてプリント等をやらされている。
- ・トイレ掃除当番をくじ引きで決めていること。

アクシデント時の教師の対応に疑問（8人）

- ・いやがらせを受けているので担任に話したところ、「強くなってください」と言われた。
- ・クラスの子の物が紛失した結果、「犯人探し」をさせ、何時間もその事について説教し、本来の授業ができなかった。
- ・体育の授業中、肩の骨折の可能性があったにも関わらず、医者に連れていく等の処置をせず、確認を怠った。（骨折していた）

子どもの言い分に耳を傾けない（5人）

- ・勇気を出して筆入れを壊された事を相談すると、自分で解決するよう突き放された。
- ・子どもが訴えているにも関わらず、その事に耳を傾ける事なく、物事を判断されてしまったこと。

教育の場であることを自覚して（5人）

- ・部活の練習の時に、いつもたばこを吸っている教員を見かける。保護者も見て知っているが、他の事でも先生に意見など言うと、「おまえのおっかさ、うるさい」とか「チクッた」と子どもに何度も言うので、だれも注意などできない状態である。
- ・子どもとさようならの挨拶が教室で終わった途端、机の上に顔を伏せ、眠ってしまうことが多いという先生がいた。

学校の対応に疑問（4人）

- ・学校行事の時、日の丸の旗に教師が1人1人みな一様に礼をしている。
- ・学校行事の際の未就学児の弟妹に対するフォローがあまりない。

教育委員会に対して（3人）

- ・問題のある先生を再教育なしでタライ回しすること。
- ・学校規模適正化による学校の統廃合問題

情報の提供について（2人）

- ・某中学生が起こした事件がテレビのニュースや新聞で報じられたのにも関わらず、学校から保護者へ何の説明もなかった。
- ・高校入試の実態を生徒と親にしっかり伝えてほしい。

E「その他」（8人）

- ・給食を食べる時間があまりにも短く、早く食べ終わるのが、良いことになっているのではないか。
- ・保護者の質問と先生の答えがかみあわない。
- ・パソコン、デジカメを授業で多用することにより、五感が退化し、また情報に振り回されて自分を失うことはないのかと不安に思う。

設備、教員、教育方針など学校に関する事で、
ひどいと思ったできごと（考察）

ここに出てきている声には、親から見ても疑問に思ったりひどいと感じるものと、子ども自身が体験し、おかしい、納得できないと思うことが親に伝えられ、親も疑問を抱くものとの2通りがある。

親は、これはおかしい、ひどいと感じてもそれをどこに伝えたらよりよい解決となるのか分からないのではないかと。特に個人の問題となると、おかしいと思っても、解決方法があるのかも分からないため、諦めてしまう。仮に意見箱のような伝える仕組みがあれば、一人の問題、単発的と思われたことも、何人かからの声が蓄積され、解決すべき問題として認識されるだろう。そう考えると、個々の問題を集約する仕組みが必要だ。こうして寄せられた意見を客観的に判断し解決策を探るシステムがあれば、親もひどいと思ったことを溜め込まず、よりよい解決のために伝えていくことができる。

子どもからの話だけでは、疑問を感じても確かめる術もなく、学校内で片付けられてしまうことが多いため、問題が明らかにならず、余程深刻な事態にならないければ、親も学校側に話を持ち出すことができない。

早期解決のためにも、親が信頼して気軽に相談でき、調査・解決のできる仕組みが必要である。

10. その他、学校や教師に求めることについて (自由回答の分類と抜粋) 89人

89人の回答を

- A「教師に対して」
- B「学校に対して」
- C「その他」

の3項目に大別した。

A「教師に対して」(49人)

「子ども一人ひとりの話を聞いて」「教師としての自覚」などの声をもっとも多く、子どもが人格形成するうえで教師の影響力は大きいため、質の向上を望んでいることが分かる。一方、「しっかり勉強を教えてほしい」という声も多く、学校の授業だけでは理解が不十分である現状の改善をも望んでいる。

<子どもを理解して！>

「子どもの心意、真意を聞いてほしい。」「一人ひとりの話しをもっとしっかり聞いてほしい。」「問題行動があった時に、その子どもの背景にあるもの、心を理解し受け入れてくれる先生がいたら・・・。」

<教師としての自覚と責任をもって！>

「子どもと言えども一人の人間として尊重するという当たり前のことを、先生が自覚してほしい。先生の人となり子どもに大きな影響を与えるので、よく考えて行動してほしい。」「これからの時代を作る人間を育てるんだと自覚してほしい。」「師との出会いが人生観を変えることがある、ということ肝に銘じて日々精進していただきたい。」「差別しないでほしい。」「個人的な感情を入れなくて。」「先生の言葉遣いそのものが子どもたちに影響します。怒るのではなく、叱る。」

<しっかり指導してほしい>

「いじめ、恐喝、たばこ、シンナー等には、特に厳しい指導をしてほしい。」「厳し過ぎるのはよくないけど、もう少し先生も逃げないで注意してほしい。」「将来、個人の指針となる指導を与えて」

<しっかり勉強を教えて！>

「学校の授業は、必要充分であるべきで、先生が「塾に行くべき」みたいなことを言うのは、責任転嫁！おかしいと思う。」「学力の低下を認めるだけでなく、それに対しての具体的な対応策を示してほしい。」「充分理解していない生徒をそのままにしないで、指導してほしい。」「勉強ができないのは、子どもの努力のせいだけではなく、もっと分かりやすく魅力のある授業をするのが教師の仕事だと思います。」

<教師同士の連携を！>

「いじめなどないよう、助け合って、教師集団がお互いを尊重し合ってしっかりまとまって、子どもたちのことを大切にしてほしい。」「先生方が一致しているという気がしない。バラバラなので学校に信頼が持てない。」

<問題のある先生は現場からはずして！>

「現場で問題のある教師を見守り、指導しているのでは、子どもたちはたまったもんじゃない。」「研修等、何らかの対策を積極的に行うべきである。」

B「学校に対して」37人

「”保護者にとって必要な情報”をきちんと知らせてほしい」という声ももっとも多い。また「安心して通える学校を」望む声も多い。「開かれた」かつ「安全な」学校を親が望んでおり、これからの学校の目指すべき1つの方向を示していると言える。

<家庭との関係づくり>

「自分たちで決めず、必ず親に結論を出す前に連絡がほしい。」「小さなことでも相談を気軽にできる場所や人を配置してほしい。」「相談事や学習への要望、ましてや批判的になってしまう意見等は、伝える場がありません。学校と家庭が積極的に意見交換できる場所と時間を設けていただきたい。」「学校の中に相談する場所があるのはよくないと思う。相談に行くのを見られ、またいじめられた。」「学校の都合だけでなく、個々の家族に事情があることを前提として考えてほしい。何か通知を出す時に、相談窓口を作っておこうというゆとりがほしい。」「もっと親とも意見交換し、学校全体で改革していけたら良いと思います。」「本音で話してほしい。」「話をしなくちゃ理解し合えません。」

<もっと情報公開を！>

「良いことばかりでなく、悪いことも、子どもたちの様子をたくさん教えていただきたい。」「中学になると途端に情報が少なくなる。」「学校はこういうことをします、というお便りはいただくが、具体的にどのように子どもたちに伝えたのか、あるいはその結果どうということが分かったのか、どのように改善されたのか、という報告がない。対応策だけでなく、その結果も伝えるべき。」

<安心して通える学校を！>

「学校への不審者の侵入が心配です。」「登下校時がとても心配です。希望者だけでも、集団下校や車での送迎がしやすい環境になればと思います。」「どの生徒も安心して通える学校、いじめや言葉の暴力などが無い学校であってほしい。」

<子ども一人ひとりに目が行き届く体制を！>

「少人数のクラス編成にしてもらいたい。そうすればもっと一人ひとりに目が届くと思う。」

<教育環境の改善を！>

「子どもは国の宝。もっと教育費に予算を！」「問題が起こる可能性を未然にキャッチできる体制が必要。」「教員を増やし、良い授業のできる環境作りが大切。」

C「その他」5人

< 親にも問題あり >

「親たちが自分を見つめ直して、自ら変わろうという意識を持たない限り、子どもは流されてしまう。子どもたちを守るために、先生も含めて親たちもみな意識改革が必要です。」

< 休日の施設開放について >

「少年団などでいろいろな学校に行きますが、学校により施設が使えたり使えなかったりさまざまです。もう少し柔軟性をもってもらいたい。」「自分も含め、経験の足りない、また学びたい親も多いので、地域の人々の学びの拠点になってほしい。」

まとめ

今回のアンケート調査・分析を通じて、回答をいただいたほとんどの親が子どものことや学校のこと、教育のことを真剣に、真面目に考えているということを伺い知ることができた。

全体から、今後の課題として、以下3つにまとめてみた。

【1．親のニーズや考えの把握】

これまで、教師や教育専門家たちから理想の親や家庭像について語られることはあっても、子育ての主体である親たちが理想の学校や教師像について語る場は公にはほとんどなかった。しかし、学校現場にも「評価」の導入が進んできている現在、これからは親のニーズや考えもきちんと把握し、評価に反映する必要があるだろう。そのためには、教師も親も、学校においてともに子どもを育てていく対等なパートナーであることを確認し、互いに何を望んでいるのか、何が課題としてあるのかをさらに知る努力、語り合う努力が必要であろう。

【2．親自身が親として力をつけていく（エンパワーメント）ための援助】

回答者の8割強の親たちが、子どもの通学路の安全やいじめ、不登校、問題行動などに関して、不安を抱えている。親は、初めから親の基本を身につけ、問題があった場合どう対応すべきかがわかっているわけではない。子どもが直面する様々な問題を通して親も悩み、考え、経験を通じて、成長し親になっていくものだ。特に1人目の子育てでは、何もかもが初めての経験で、わからないなりに一生懸命子どもと共にしがき、多くの人に見守られ、支え助けられてようやく親になっていくものである。にも関わらず、不安を抱えている親に対して、専門家や権威のある人たち、教師などから「親や家庭はこうあるべき！」と上から押し付けられたり「親や家庭に問題、責任がある」などと非難されることが多々ある。それによって傷ついたり、反発を覚える親は少なくない。これでは子どもをめぐる問題は解決されるどころか、親が不安を抱え本音を語れないまま、解決から遠ざかってしまう。特に、トラブルを抱える親子では、存在そのものが否定されたような形となり、孤立感を深めてしまっているのではないだろうか。不安を抱えている親への対応やサポート、そして親として力をつけていく（エンパワーメント）ための援助について具体的に議論していく必要があるのではないだろうか。

【3．理想と現実のギャップを埋める仕組み】

回答者の約5割の親が学校に関することでひどいと思う経験をしていることからわかるように、親は学校や教師に対してある程度の理想を描いている一方で、現実にはさまざまな疑問を感じたりひどいと思うような経験をしている。親は、納得のいかない立場に置かれた時、問題は解決されないまま教師への信頼も薄らいでしまう。このような理想と現実のギャップがあった場合、それを埋めるためには、何らかの仕組みが必要であろう。たとえば、親や子どもたちからの相談や、子どもの問題を包括的にとらえる独立した組織もその一つである。子どもをめぐる問題解決のためには、専門家による「経験」や「常識」も時として必要ではあるが、悩み、懸命になっている親に「誠意」と「柔軟な感性」を持って、まず「向き合うこと」が必要ではないだろうか。そして、指導ではなく「共感」と「寄り添い」があれば、親は胸のうちを語ることができ、それこそがよりよい解決への第一歩となるだろう。

『親たちは学校に何を求めている？』アンケートのお願い

最近、不審者の出没、登下校時の連れ去り事件、子どもによる犯罪、教師による学校でのセクハラ行為 etc...子どもと学校をめぐる事件が頻発しています。また、「ゆとり教育」が提唱される一方で、学力低下、学校でのいじめや暴力、非行、不登校などの問題も浮き彫りになってきています。

このような子どもたちの現状の中で、親たちは学校や教師に、本当に望んでいるのは何なのか、率直な思いを伺うためこの調査を行うことにしました。

ご協力をよろしくお願いいたします。

● 目的／

親たちは、学校や教師に本当に望んでいることは何なのか、率直な声を聞き、政策提案につなげる。

● 対象／

未就学児、小学生、中学生の子どもを持つ浜松市とその近郊に在住する親

● 調査期間／

2003年12月1日（月）～12月21日（日）の3週間

● 調査方法／

アンケート用紙による留置調査、インターネットメールによる調査

● 回収方法／

- 1 FAXによる返信
- 1 調査協力者が回収
- 1 インターネットメールによる回答

この調査は、浜松市政向上委員会「おやおやプロジェクト」が行います。

ご回答いただいた内容につきましては、「おやおや白書」（2004年3月発行予定）に掲載し、子どもを取り囲む状況の改善、政策提案の目的のもとに使用いたします。

浜松市政向上委員会「おやおやプロジェクト」

〒431-3125 浜松市半田山二丁目 5-10 TEL/FAX 053-431-1511

E-mail oyaoyaproject@megumi-happy.net

■Q1 あなたのことについてお答えください。

- 1 あなたの年齢 (20代 30代 40代 50代)
- 2 あなたの性別 (女性 男性)
- 3 子どもの年齢 (複数回答可)
未就学児 小学校1～3年 小学校4～6年 中学校

■Q2 あなたの理想とする小学校はどのようなものですか。(2つ選択)

- 1 自然に親しみ、体験や遊びの中から学べる学校
- 1 社会に出て困らないだけの能力(基本的な生活習慣や基礎学力)をつけてくれる学校
- 1 子どもの特性に合わせて一芸を伸ばしてくれる学校
- 1 難易度の高い学校に進学できるだけの力をつけてくれる学校
- 1 安全対策がしっかりしている学校
- 6 子どもが喜んで通う学校

●あなたの理想とする小学校について自由にお答えください。

■Q3 あなたの理想とする中学校はどのようなものですか。(2つ選択)

- 1 自然に親しみ、体験や遊びの中から学べる学校
- 1 社会に出て困らないだけの能力(基本的な生活習慣や基礎学力)をつけてくれる学校
- 1 子どもの特性に合わせて一芸を伸ばしてくれる学校
- 1 難易度の高い学校に進学できるだけの力をつけてくれる学校
- 1 安全対策がしっかりしている学校
- 6 子どもが喜んで通う学校

●あなたの理想とする中学校について自由にお答えください。

■Q4 あなたの理想とする教師像はどのようなものですか。(2つ選択)

- 1 教育に対して熱意があり、子どもが好きである
- 1 子どもを引っばっていくリーダーシップがある
- 3 厳しくしつけて育ててくれる
- 4 できる子がより伸びるように指導してくれる
- 5 分からない子の目線に立ち、根気よく指導しやる気を起こさせてくれる
- 6 気さくな人柄で、保護者の相談や悩みにもよく乗ってくれる
- 7 社会経験が豊富で、多角的視野で子どもを指導できる

●あなたの理想とする教師像について自由にお答えください。

■Q5 あなたの理想とする校長(学校の責任者)像はどのようなものですか。(2つ選択)

- 1 問題が起こった時には、生徒の安全を第一に、迅速に対応してくれる
- 1 保護者の理解を得る努力を惜みず、積極的に交流している
- 1 子どもが好きで、子どもたちに慕われている
- 1 教育熱心でしっかりした教育ポリシーを持っている
- 1 社会経験が豊富で、多角的視野で学校経営ができる
- 1 革新的で積極的に教育改革を推進している
- 1 人を惹き付け、リーダーシップを発揮している

『親たちは学校に何を求めている？』

アンケート集計第一次報告書

平成 16年 3月

おやおやプロジェクト
浜松市政向上委員会

浜松市半田山 2-5-10
TEL/FAX 053-431-1511
oyaoyaproject@regumi-happy.net